

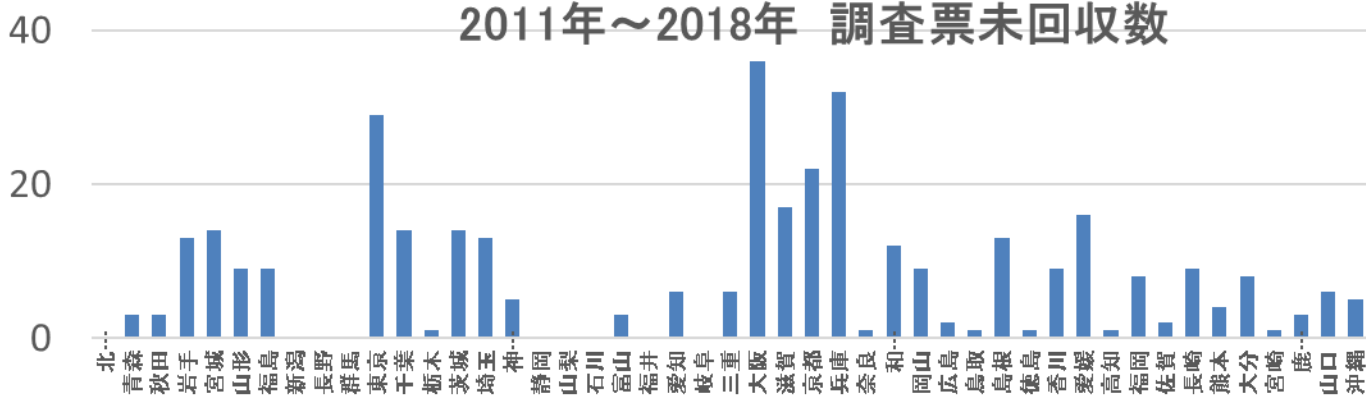
わが国のサーベイランスの課題とその対策

研究分担者: 国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経内科 塚本 忠

2011年～2018年未回収調査票の
未回収調査票数・未回収率

ブロック	送付数	返送数	未返送数	未返送率
1	146	146	0	0.0%
2	215	164	51	23.7%
3	173	173	0	0.0%
4	927	866	61	6.6%
5	402	397	5	1.2%
6	75	72	3	4.0%
7	264	252	12	4.5%
8	646	526	120	18.6%
9	351	299	52	14.8%
10	583	537	46	7.9%
合計	3782	3432	350	9.3%

2011年～2018年 調査票未回収数



回収率の都道府県による違い

- 回収率の非常に高い都道府県がある。関東・近畿ブロックの回収率は著明に改善した。
- 初期に未回収数が多いと年度を経ても回収しにくい。依頼後3ヶ月を経過して未回収の例は担当地区委員に連絡。
- 再依頼により調査表の回収率は明らかに上昇する。

剖検率のさらなる低下への対策

- 要因: 硬膜移植後CJDの減少とともに剖検率が近年低下している。
- 主治医および家族向けパンフレットのさらなる活用(意義と安全性を説明)
- 剖検可能な施設を拡大もしくはセンター化(NCNP病院検査部病理科の協力)
- 感染予防ガイドラインの改訂(2020年度版)と普及
- 関係学会・団体の協力、患者・家族会の発展
- サーベイランスと自然歴の一体化調査研究の推進

解説

1. 都道府県別に差はあるものの、サーベイランス調査票の回収はまだまだ悉皆検査というにはほど遠い状態である。主治医への働きかけを早期から繰り返し行う必要がある。
2. 2018年度の回収率は著しく改善したが、サーベイランス調査と自然歴調査の一体化がその理由の一つである可能性がある。